（12面から続く）

小林　世代が違うと仕事に対する価値観が違うと感じることもあります。特に若手に技術や心構えを教えるためにはその人自身のことをよく知らないといけないのですが、会食などの自粛もあるため業務外でのコミュニケーションが取りづらいというのは辛いです。

――コロナ禍で社内コミュニケーションが取りづらくなったとのことですがそのほかに影響はありますか

刈谷　当社は特注の製品が多く、ユーザーの方と密にコミュニケーションをとりながら一緒に製品を作っていくという部分があるため、対面のコミュニケーションでないと詳細や温度を伝えることが難しいという部分があります。一方で仕事の打ち合わせとしてオンライン会議を行うことが一般化し、遠隔の地域にいるユーザーとの会合が容易になり、移動費などの削減に繋がったというメリットもあります。

平井　社内の取り組みとしては新型コロナウイルスの感染防止対策として時差出勤を実施するようになりました。業務では部品や材料の仕入れ先が在宅勤務やリモートワークをするようになり、情報の伝達の遅れから、部品の調達が従来より、遅くなるなどの影響もありましたが、昨年度は在庫の部品で対応することができ、納期に遅れが出るようなことは幸いなかったです。

熊谷　オーダーメイドで製品を生産するメーカーである以上、製造の現場では人の手を動かさないといけない部分が大きいです。一方で営業や技術などの業務はリモートワークで行うということが当社でも今後、進んでいく可能性はあります。また、コロナ禍という状況を抜きにしても少子高齢化が進行し、労働人口の減少も進み、技能者や技術者の担い手が減っている現状を考えると製造においても自動化や半自動化できる部分について検討していくことが事業を継続する上で必要になるかもしれません。

――業務において心構えや取り組みがあれば

小林　品質管理の視点では不良品の発生および流出をゼロにすることが究極の目標となります。不良品の発生や流出はメーカーにおいては大きなロスになり、ユーザーからの信頼も失うなど当然ながら悪いことしかありません。そして不良品は人の手で作る以上ゼロにはなりませんが、ゼロに近づける努力をすることはできます。まず、不良品の発生や流出を極力無くすためには各部門間でコミュニケーションを取ることが必要です。また、仮に発生した場合、何故不良品が出たのかということを詳細に検証することが重要だと思います。当社ではこうした取り組みのおかげで以前より不良品の発生や流出は相当減少しています。

小林さん

関根　探触子の製造ではこれくらいで大丈夫であろうという緩さは許されません。また、手に取るユーザーがいる以上、製品の見た目にもこだわりを持って製造しています。部下や後輩からはこだわりすぎると言われることもありますが。

関口　関根課長の持つこだわりはものづくりに携わる人間として素晴らしいと思います。実際にユーザーの方には製品の外観や仕上がりも注視する人もいます。こうした姿勢は若手社員にも見習って欲しいですね。

平井　私が若手だった頃は仕事をこなしていくことで、仕事に必要な技術や技能および知識は後からついてきたという部分もあります。今の若い人は理論や理屈など頭の理解から入ろうとして行動力が鈍い部分が見受けられます。まずは色んなことにチャレンジして欲しいですし、機会を与えることが必要ではないかと思います。

関口　私もまずは行動することで仕事を覚えてきたという部分が大きい人間です。ただ自己流で取得した技術や知識も多いため後進を指導することも仕事だという点も考えると、体系的に平準化したほうが若い世代も覚えやすい上に私自身が指導しやすい部分もあるのではないかと思います。また、若手といっても専門分野や得意分野ではベテランや中堅社員以上の知見や技術・技能を持っている場合もあります。そういった部分は相手が部下や年下であっても謙虚な姿勢で教えてもらうということが大事です。

刈谷　岡社長の教えでもあるのですが高品質な探触子を作るためには身の回りの整理整頓に徹することも大事なのではないかと思います。ユーザーが商談などで当社に訪問した時に綺麗な工場や事務所だから高品質な製品を作ると思ってもらえる部分もあるのではないでしょうか。

――4月3日に創立60周年を迎えましたが同社の目標や展望について

小林　社会のなかでUTをはじめとした非破壊検査技術は人々の暮らしの上でとても重要なものです。UTなら当社の製品を使うことが当然といわれるような製品づくりを目指していきたいです。また探触子は探傷器があってのもので探傷器も非破壊検査があるから存在します。我々が高品質な探触子を提供することが非破壊検査やそれに関連する産業や社会全体の発展に貢献できれば光栄です。

平井　技術と技能を鍛えることでリピート製品の再現性という部分を高めていきたいです。例えば、十年前に作った製品のリピートの場合、ある程度同じような製品にすることはできますが、完全に再現するとなると現状では難しいです。また繰り返しとなりますが、不良品をゼロにするということが大きな目標となります。いかにそれに近づけるか、それに向けて、改善のできることがないかを検討しながら精進していきたいです。

刈谷　創立60周年という節目は、今後も当社が発展していくため、自己分析し、世の中やユーザーが何を求めているのか考え直す機会ではないかと思います。そして当社にしかできない製品を生み出すことで、これからも末永く社会に貢献できる会社になればと思います。

関口　UTの適用先となる産業のグローバル競争が激化するなか、国内の鉄鋼産業などにおいてUT自体の件数が減り、探触子の需要も減ってしまうという危機感があります。一方で当社の探触子の品質の高さを世界にアピールすることができればグローバル市場でユーザーを獲得できるチャンスでもあると考えています。

熊谷　超音波探触子のリーディングカンパニーといえばKGK（検査技術研究所）と言われる会社で常にありたいと考えています。最近ではユーザーから探触子だけではなく付随する検査用のジグやエンコーダーなどを作って欲しいという声もあります。そういった案件に対応するためにも技術と技能の向上は必要だと思います。

関根　皆さんが言うことを実現していくためには、さらに高度な技術と技能が必要になると思います。そして、そうした高度な技術と技能が必要な仕事は一部の社員のみができる状況ではなく、幅広い社員が対応できるという会社にすることが重要です。そのためにも教育制度や方法を整備し、高度な技術と技能であっても円滑に伝承できるような会社にしていきたいです。

――本日は長時間にわたり有り難うございました

本社屋

検査技術研究所（KGK）・60周年の歩み

1961年	**4月3日・非破壊試験機材の研究開発を目的に資本金50万円にて発足**
	日本学術振興会（以下、「学振」）でのSTB-III型の試作実験に参加
1963年	「学振」よりSTB-III型の検定及び頒布作業を受託
1964年	「JSNDI」より板波用試験片の検定及び頒布業務を受託
	垂直探触子、局部水浸探触子の製造開始
1965年	「JSNDI」よりSTB-A2の検定及び頒布業務を受託
1966年	標準斜角探触子、各種探触子ケーブル、特殊変換接栓の製造開始
1968年	「JSNDI」よりSTB-N1、STB-A1の検定及び頒布業務を受託
1970年	ミニチュア型斜角探触子、二振動子型斜角探触子、各種探触子の製造開始
1971年	「JSNDI」よりSTB-A3の検定及び頒布業務を受託
1973年	「学振」STB-III型をSTB-Gに名称変更
1977年	点集束探触子の製造開始
1980年	「JSNDI」よりSTB-A21、STB-A22の頒布業務を受託
1983年	「JSNDI」よりSTB-Gの検定及び頒布業務を受託
1984年	斜角探触子の不感帯ゼロを実現
	鋼板の音速異方性チェック用横波垂直探触子、クリーピング波探触子の製造開始
1986年	接触媒質自給式斜角探触子、接触媒質自給式厚さ計探触子の製造開始
1987年	広帯域探触子の製造開始
1988年	世界最小探触子（ちび太くん＆ぺちゃ子さん）の製造に成功
1993年	SH波探触子の製造開始
1995年	「JSNDI」よりSTB-A31、STB-A7963の検定及び頒布業務を受託
1997年	コンポジット探触子、アレイ探触子の製造開始
1998年	ポリスチレン樹脂探触子の製造開始
2003年	「JSNDI」よりSTB-A32の検定及び頒布業務を受託
2008年	2007年度「神奈川県優良工場」表彰
	資本金を4,000万円に増資
	経済産業省より「元気なモノ作り中小企業300社」選出
2010年	2009年度ものづくり中小企業製品開発等支援補助金受託
2013年	2012年度ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金受託
	NS+システム 実用新案登録　登録第3188847号
2014年	2013年度中小企業・小規模事業者ものづくり・革新事業補助金受託
2016年	創立55周年の記念式典として「社内コミュニケーションの活性化」をテーマに
	全社員家族参加の東京ヴァンテアンクルーズを実施
2017年	ノンカプラント探触子 実用新案登録 登録第3212734号
	スイッチ切り替え斜角探触子　実用新案登録　登録第3212735号
	2016年度革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金受託
2018年	公益社団法人日本鉄筋継手協会の非破壊検査小委員会に所属し、試作、実験を行いながら、鉄筋ガス圧接部探傷用の二面振動子斜角探触子の有効性を確認し製造販売
2019年	コンクリート埋設材路面境界部の調査測定法(NS技術)が、一般財団法人 国土技術研究センターの「道路附属物(標識、照明施設等)の支柱路面境界部以下の変状を非破壊で検出できる技術」に選定
	道路付属物腐食検出システム「NS+システム」販売開始
2020年	COBRA SCIENTIFIC社製探触子評価システムを導入
2021年	**創立60周年**
	中小企業庁　事業継続力強化計画事業者に認定
	JSNDI第28回 超音波による非破壊評価シンポジウムにて
	「積層コンポジット振動子超音波トランスデューサの動作シミュレーション」を発表
	特別企画「創立60周年　検査技術研究所」
	【産報出版検査機器ニュース第1442号掲載】